

- 問1 ヤマト王権が、軍事的な指揮権を認めてもらうために使者を送り、鉄資源などの確保を目指した地域はどこ？
- 問2 3世紀後半からヤマト王権において、各地の豪族を従えていた最高権力者を何という？
- 問3 日本各地で首長の墓が作られ、広い範囲で勢力を広げていた当時の政治的なまとまりを何という？
- 問4 古墳時代に輸入された鉄を利用して作られ、農業生産力を向上させた道具を何という？
- 問5 5世紀ごろ、百済の博士として日本に派遣され、漢字とともに儒教を伝えた人物は誰？
- 問6 円形と方形を組み合わせた鍵穴のような形をしている、古墳時代に作られた日本最大規模の墓を何という？
- 問7 中国の歴史書に記されている、5世紀頃に南朝へ朝貢を行ったヤマト王権の5人の王をまとめて何という？
- 問8 6世紀、日本への仏教伝来に際して、その導入に賛成した有力な豪族は誰？
- 問9 埼玉県稲荷山古墳から出土した鉄剣に、その名が刻まれているヤマト王権の最高権力者は誰？
- 問10 儒教の伝来とともに日本に広まった、孔子の教えを記した書物を何という？
- 問11 5世紀ごろ、日本へ移り住み、高度な技術や文化を伝えた人々が由来した朝鮮半島の国家を何という？
- 問12 ヤマト王権が鉄資源を求めて使者を派遣した、中国の当時の王朝を何という？
- 問13 4世紀から7世紀にかけて近畿地方を中心に勢力を広げた勢力を何という？
- 問14 大阪府に位置する、日本最大の前方後円墳として世界文化遺産にも登録されている古墳を何という？
- 問15 ヤマト王権の支配力が拡大する中、全国に広まった巨大な墳墓の形を何という？
- 問16 6世紀半ばに、日本の欽明天皇へ仏像や経典を贈り、仏教を公式に伝えた百済の王は誰？
- 問17 5世紀後半にヤマト政権の最高権力者が用いた称号を何という？
- 問18 稲荷山古墳などの出土品に名前が刻まれ、その支配が九州から関東まで及んでいたとされる大王は誰？
- 問19 中国の歴史書『宋書』に記されている、ワカタケル大王（雄略天皇）と同一人物と考えられる王を何という？
- 問20 熊本県和水町にあり、稲荷山古墳と同じ大王の名が刻まれた鉄刀が出土したことで知られる古墳は何という？
- 問21 古墳の内部に死者の権威を示すために納められた鏡などの品々を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 朝鮮半島	ヤマト王権は、半島南部の諸国との交流を強めることで、安定した鉄の供給を図りました。また、半島内での権益を確保するために中国の王朝へ使いを送り、自身の軍事的な立場を認めさせようとしていました。
問2	答え 大王	ヤマト王権の長は「大王（おおきみ）」と呼ばれ、各地の豪族を服属させたり、有力豪族を中央の官職につけたりして国を治めました。後に天皇と称するようになる前の、強大な権力を持つ王の呼称です。
問3	答え ヤマト王権	ヤマト王権は、古墳の築造や鉄製品の供給などを通じて各地の豪族を統制しました。王は各地の豪族に地位や官職を与え、権力体制に組み込んでいくことで日本全国への支配を強めました。前方後円墳が全国に築かれていることは、この勢力が全国に及んでいた証拠といえます。
問4	答え 鉄製農具	鉄製の鋤（すき）や鍬（くわ）などの鉄製農具が普及したことで、それまで開墾できなかった硬い土地の耕作が可能になりました。これにより稲作の効率が飛躍的に高まり、収穫量が増加しました。さらに鉄は武器の材料としても使われ、ヤマト王権の軍事力強化にも大きく貢献しました。
問5	答え 王仁	王仁は百済から派遣された博士であり、優れた学識で日本の朝廷に貢献しました。彼が『論語』や『千字文』をもたらしたという伝説は、日本の学問が大陸から本格的に導入されたことの象徴とされています。王仁の存在は、日本人が漢字を習得し、中国の進んだ統治の知恵である儒教を学ぶきっかけとなったとされています。
問6	答え 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を組み合わせた日本独自の形状で、大和地方を中心に全国各地へ広がりました。大仙古墳などはその代表例です。これらの古墳には、亡くなった首長の力や地位を示す副葬品が多数納められていました。
問7	答え 倭の五王	記録に残る王は、讃・珍・済・興・武の5人です。特に最後の「武」は、国内から出土する鉄剣の銘文に見られるワカタケル大王と同一人物であると考えられています。彼らは中国皇帝に軍事的な支持を求める使節を送り、国内の権威付けを行いました。
問8	答え 蘇我氏	蘇我氏は、百済から伝わった仏教の持つ高度な知識や技術にいち早く目をつけました。彼らは仏教を支持することで、他の豪族との競争において優位に立とうと考えました。一方、物部氏などの反対勢力は、伝統的な神々を軽視するものとして武力で対立しました。最終的に蘇我氏が勝利し、仏教が公認されることとなりました。
問9	答え ワカタケル大王	ワカタケル大王は、当時のヤマト王権の最高権力者で、一般に雄略天皇と同一人物であると考えられています。稲荷山古墳の鉄剣に名前が刻まれていることは、当時の王権が東国にまで影響力を持っていたことを強く示しています。
問10	答え 論語	『論語』は、家族の絆や社会での礼儀、指導者としての誠実さを説いた書物です。日本に伝わると、漢字の学習教材として活用されるだけでなく、統治者やエリートの道徳的教養として大切にされました。この書物を通じて、日本人は「人としてのあり方」や「社会秩序」という考え方を学びました。
問11	答え 百済	百済から移り住んだ渡来人は、先進的な技術を持った職人や学者、僧侶などでした。彼らは日本の豪族と協力し、土木工事や農具の製作、さらには学問や宗教の導入に多大な貢献をしました。当時のヤマト政権にとって、百済は重要な協力関係にある国でした。
問12	答え 南朝	ヤマト王権は、中国との外交関係を通じて、その権威を借りることで半島への影響力を強めようとしていました。中国へ使者を派遣して朝貢することで、最新の技術や鉄資源を優先的に入手しようとしたのです。当時の中国は南北朝時代であり、南方に位置する「南朝」と主に外交関係を持っていました。
問13	答え ヤマト王権	ヤマト王権は、近畿地方を中心に各地の豪族と連合して国内を統治する政治組織です。有力な豪族を従え、朝鮮半島との外交や、大陸からの進んだ技術を取り入れることで富を蓄えました。大王を中心とした豪族の連合体という性格が強く、次第に中央集権的な国家へと変化していきます。
問14	答え 大仙古墳	大仙古墳（伝仁徳天皇陵）は、墳丘の長さが約486メートルにも及び日本最大の前方後円墳です。三重の濠（ほり）に囲まれた壮大な姿をしており、ユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の王権が、いかに巨大な労働力や土木技術を動員する力を持っていたかを象徴する遺跡です。
問15	答え 前方後円墳	前方後円墳は、四角い「前方部」と円形の「後円部」を組み合わせた特徴的な形状で、規模の大きさはそのまま権力の大きさを表していました。近畿地方から始まり、王権の広がりとともに全国へと普及していきました。
問16	答え 聖明王	聖明王は、外交的な贈り物として仏教の教えを選びました。欽明天皇に献上された仏像や経典は、日本にとって初めて本格的に触れる異国の教えでした。これが日本に初めて正式な宗教としての仏教が根付くきっかけとなりました。
問17	答え 大王	この時期の最高権力者は「大王（おおきみ）」という称号で呼ばれ、各地の豪族を従えて国を治めました。埼玉県や熊本県の古墳から出土した鉄剣の銘文にも「ワカタケル大王」という記述が見られ、当時の王権が地方へ影響力を持っていたことがわかります。
問18	答え ワカタケル大王	「ワカタケル大王」の名は、埼玉県と熊本県の古墳から出土した鉄剣・鉄刀に金象嵌で記されています。これは、この大王の権力が東国から九州まで、列島の広範囲に及んでいたことを如実に示しています。一般的には、記紀に見える雄略天皇と同一人物だと考えられています。
問19	答え 倭王武	中国の歴史書である『宋書』には、倭国の王の名前が記されており、その中の「武」は、国内の遺跡から発見された鉄剣の銘文にある「ワカタケル大王（雄略天皇）」のことだと考えられています。これにより、日本の歴史がアジアの国際情勢の中で位置づけられるようになりました。
問20	答え 江田船山古墳	江田船山古墳は、熊本県に位置する5世紀から6世紀頃の古墳です。ここから出土した鉄刀には、稲荷山古墳のものと同じワカタケル大王の名が記されており、ヤマト王権の影響力が九州の地まで深く及んでいたことを示しています。また、これらの出土品は、当時の武器や装飾品の様式を知るためにも重要です。
問21	答え 副葬品	銅鏡、勾玉（まがたま）、鉄製の武器や農具などが代表的な副葬品です。これらは当時、非常に貴重な宝物や技術の象徴でした。また、墳丘の上には土製の埴輪が並べられ、埋葬された人物の威厳を周囲に示しました。